

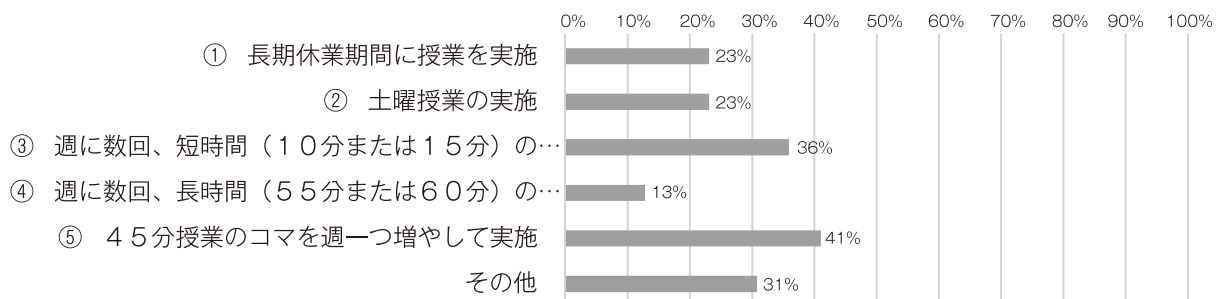
## 4 その他

(1) (小学校のみ) 平成32年度から、中学年において外国語活動が、高学年において教科としての外国語科が導入されることで年間35単位時間ずつ増加されることとなります。それに対応して現時点でどのように時間割を編成しようと考えていますか。

(複数回答可)

- ① 長期休業期間に授業を実施
- ② 土曜授業の実施
- ③ 週に数回、短時間(10分または15分)の授業を実施
- ④ 週に数回、長時間(55分または60分)の授業を実施
- ⑤ 45分授業のコマを週一つ増やして実施
- ⑥ その他( )

平成32年度から、年間35単位時間ずつ増加されることとなります。それに対応して現時点でどのように時間割を編成しようと考えていますか。(小学校のみ)



### その他

- 「検討中・未定」(6/39校)
- 「土曜授業と余剰時数を活用」(1/39校)
- 「行事時数・欠時数の削減」(1/39校)
- 「閉校のため、考えていない。」(1/39校)
- 「長期休業を短縮し、週のコマ数を変更しない。」(1/39校)
- 「教育課程特例校のため、町独自の教育課程を編成している。」(1/39校)
- 「移行期には15コマを総合で、残り20コマを余剰時数で対応。完全実施時には町の対応に従い実施する。」(1/39校)

- 年間35単位時間増への対応は、各学校や各市町によって違いがあります。
- 「検討中・未定」としている学校も6校あり、熟慮を重ねています。

## (2) (中学校のみ) 各教科等横断的な視点で教育課程を編成するにあたり、どのような工夫をしていますか。(記述式)

- ・ 今後編成見直し予定
- ・ 各教科における実施時期の検討
- ・ 別葉の作成と整備
- ・ 全教員が比較的関わる総合的な学習の時間から試みており、そこから各教科等での編成へと広がりをもたせるようにしている
- ・ 校内研修の授業反省などを活用し、教科間の情報交流を図る
- ・ 道徳の別葉を活用し、各教科でいつ、同様な内容を学習しているかを把握する
- ・ 授業時数を確保するために会議を計画的に入れている
- ・ 進捗状況を確認できるよう打ち合わせの時間を確保している
- ・ 各教科間での摺合せができるよう、研修部を中心に見直しを図っている
- ・ 道徳で全体計画の別葉を作成
- ・ 全教科等で主体的・対話的で深い学びとなるような指導を工夫
- ・ 道徳の年間指導計画の作成や見直しにあたっては、学校行事や特別活動との関連が図られるよう工夫している
- ・ 教育課程検討委員会の早期開催と定例化
- ・ 新学習指導要領の研修の実施
- ・ 先行実施を見据えた道徳、特活、総合的な学習の時間の計画実施内容の見直し
- ・ 各教科等における学習を充実させ、教科等間のつながりを捉えた学習を進める観点から、教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整えさせる
- ・ 教科等の教育内容を相互の関係で捉え、必要な教育内容を組織的に配列し、更に必要な資源を投入させる
- ・ 個々の教育活動を教育課程に位置付けさせ、教育活動相互の関係を捉え、教育課程全体と各教科等の内容を往還させる
- ・ 道徳の指導計画（別葉）で他教科とのかかわりを明示
- ・ 総合的な学習の時間の全体計画で他教科とのかかわりを明示
- ・ 本校の研究テーマは道徳であるが、各教科の授業改善を目指し、日常的な授業公開、ミニ協議を行っている。その協議の中で、教科の指導内容及び他教科、生徒の実態との関連性等を踏まえた交流の場を位置付けることで、担当教科の指導内容を多角的、多面的な視点でとらえられるようになり、その視点が横断的な教育課程の編成に生かされている
- ・ 学校課題や研修課題（主題）との関連をとおして、特に生徒にどのような資質・能力を育成していくのかという視点から、各教科、各領域の関連と内容の体系化を図るよう取り組んでいけるように意識している
- ・ 理科と技術で電気を、性教育を保健と道徳科など、連携している
- ・ 理科・数学担当教諭間において「濃度」の指導方法を共有するなど、生徒への指導に係る情報共有は行われているが、教育課程の編成に向けた特段の工夫は行われていない
- ・ 総合的な学習の時間の中では、調べ学習など教科横断的な活動が行われるが、各教科の中では現段階では具体的に協力体制が取られていない

- ・例として理科の密度や圧力、飽和水蒸気量など様々な「計算」や事件結果から導き出される重さとバネの伸びの関係など「比例のグラフ」等、数学と関わるが多々あり、教科担任間で既習済みかどうか確認することがあった。将来的に教科間で横断的な視点を具体的に持ち、話し合う必要があると思っている
- ・各教科で学習した内容やスキルが生かされるよう構成する
- ・各領域の指導計画を作成の際、町内・校内業との関連性を考慮する
- ・各教科等で今後求められていく力を各担当で明確にするとともに、評価・評定の考え方を再統一している
- ・各教科と道徳等との関連を改めて認識するとともに外部人材の活用、「総合的な学習の時間」の見直しを進めること

- 次期学習指導要領の研修を実施している学校があります。
- 道徳や総合的な学習の時間から、各教科等・領域との関連を図っている学校が多くあります。
- 特定の教科等で連携を図っています。(例：数学科と理科、理科と技術分野、保健分野と道徳)
- 学校課題や研修（主題）から、各教科等横断的な視点で見ている学校があります。
- 新たに教育課程検討委員会を発足させる学校もあります。



### (3) カリキュラム・マネジメントについて自校の課題がありましたらお書き下さい。

(自由記述)

#### 小学校

- ・新しい学習指導要領に沿った指導計画づくりを計画的に進めている。先行事例や具体的な指導計画等の情報が乏しく、若い職員が多く、また職員数が減少している中で、道徳や学級活動、総合、体育科等の見直し改善、作成を進めていかなければならないこと自体が課題であると考えている
- ・教職員の共通理解
- ・未だ深く理解するには至っていないため、理解できるような研修の機会が必要である
- ・教育に関わる様々な全体計画等の整備が求められ作成しているが、活用については十分とは言えない
- ・学校評価を見る限りでは、今のところ大きな見直しを図る必要は無いが、道徳の教科化や外国語活動の拡充（中学年）や教科化（高学年）が目前に迫っており、それに対応する動きがまだ為されていない
- ・教科等の縦割りや学年を超えて、学校全体で取り組む組織及び運営の見直しを図る
- ・教職員一人一人が責任をもち、カリキュラム・マネジメントに必要な能力や資質を高める
- ・保護者、地域の人々を巻き込んだカリキュラム・マネジメントを確立する
- ・教員一人一人が課題意識と参画意識を持ってカリキュラム・マネジメント構築に当たることが必要であるが、日々の教育活動の中で無理なく行っていけるのか（時間の保証）が課題
- ・カリキュラム・マネジメントに関する3つの側面について、教職員間での共通理解をより校内研修などを通じて図っていくことと、組織の推進力と方向性を整え、学校全体で取り組む体制を充実させていくことが課題である
- ・カリキュラム・デザインの見直しや整備
- ・人的・物的資源の再開発
- ・カリキュラム・デザインと、それを地域社会と、どう共有するか
- ・日常の業務が多く、改善への意欲を高めづらい
- ・欠学年があるため、とび学年での複式学級における教育課程の編成の充実が課題である
- ・教員に課題意識はあるが、それを改善せず、現状を受け入れていること
- ・これからの時代に必要な資質・能力を子供たちに育むことができるよう、教員研修を通じて改善を図らせることができるか
- ・教員研修自体を、主体的・協働的な学びの要素を一層含んだものに転換していくことができるか
- ・新学習指導要領の実施に向けて、道徳科の整備には着手しはじめたが、外国語や他教科の整備までにはいたっていない
- ・平成30年度より小中一貫校を実施するので、9年間を通じたカリキュラムの編成を進めているが、小中での打合せの時間がなかなか取れないなどすり合わせが進まないことが課題である

- ・ 編成に対する総則の理解や学校の方針が共有化されていない
- ・ 地域からの要請の強い伝統ある教育活動（マーチングバンド・すもう教育）の推進にあたり、時数確保が難しい
- ・ 個々の教師のマネジメント力の向上が課題である
- ・ 全教職員に対しての自覚とカリキュラム・マネジメント力向上のための研修のもち方について
- ・ カリキュラム改善に係り、成果と課題の検証方法に弱さがある
- ・ 教職員個々のレベルでのマネジメント能力の向上を課題としている。全校的なものは、PDCAサイクルで動いているが、日常の授業や学級経営はそのレベルになっていない
- ・ 課題を全職員で検討する時間の確保
- ・ 他の行事や年間の計画との時間調整が難しい
- ・ 学習に必要な施設が身近にない場合がある
- ・ 学級担任外などの、人的余裕が少ない
- ・ 改善を進める教職員の意識
- ・ 話し合いなど会議等の時間の確保が難しい
- ・ 活用資源の確保（人的）と開発（物的）
- ・ 教職員一人一人の意識強化
- ・ 保護者、児童、地域、教職員の目的・目標の共有
- ・ 外国語の指導計画の作成、30年度からの道徳の実施、全体での週1コマの増加をどうするかなど課題が山積している。教科横断的な編成等新学習指導要領の趣旨に即した教育課程を編成していくために、現在の教育内容の精選なども同時に実施していかなければならないが、先にあげたような課題を一つずつ解決しながら編成するための作業と時間の確保が最大の課題である





## 中学校

- ・ 組織的な対応
- ・ 新学習指導要領の理解浸透
- ・ 主任への計画的意図的なはたらきかけ
- ・ 教育課程の課題整理と次年度の編成
- ・ 組織的なP D C Aサイクルに基づく実践が不十分
- ・ 教育活動にマッチした人的資源がなかなか見いだせない
- ・ 本年度より、小中一貫型のコミュニティ・スクールとしてスタートした。そこで、自校のみならず、小中の系統立てた連続したカリキュラムづくりのために、相互に情報交流、検討協議などを重ねているところである
- ・ 総合的な学習の時間と教科の関わりが整理されておらず、特別活動的要素が強い。また、教科同士の関連性が整理されていない
- ・ カリキュラム・マネジメントの意義・方法についての研修が必要
- ・ 学校の規模や、地域の状況の変化に合わせて、持続可能な取組を策定していくこと
- ・ 各学年単学級の職員定数のため、免許外指導が必要になってくる。また、現在、期限付教諭が2名となり、長期的視点に立ったカリキュラム・マネジメントに支障をきたす
- ・ 地域社会を巻き込む教育課程の編成及び地域社会への発信
- ・ 短いスパン、スモールステップによる成果の見える化と改善策の検証
- ・ 学校全体でかかわる意識を高めたP D C Aサイクルの確立
- ・ 地域の人的・物的資源の発掘やその活用に向けた学校運営協議会との連携体制の確立
- ・ カリキュラム・デザイン、P D C Aサイクル、内外リソースの活用は本校としてはどれも取り組んでいるが、さらなる質の向上を図る必要がある
- ・ 地域人口が少なく、人的資源が限られているため、活用の幅をなかなか広げられない
- ・ ミドルリーダーに該当する主任や部長が教育課程に積極的に関わり、推進しているが、現段階では編成・推進が精一杯で、「一人一人がどの部分から改善を進めていくか」、「どのように教師集団として一人一人が関わっていくか」など全体のものになっていない
- ・ 新学習指導要領のねらいの周知・定着
- ・ カリキュラム・マネジメントの必要性の定着
- ・ 教科指導以外のカリキュラム・マネジメントの意識
- ・ カリキュラム・デザインを策定（早めに提示していくこと）
- ・ 実際には「教科横断的な視点」をイメージすること自体が難しい部分がある
- ・ 次期学習指導要領の趣旨を理解させるにとどまっているため、どの職員も教科横断的な視点をもてていない